



デマンド運行に使用予定の同型の10人乗りワゴン車

デマンド交通システム
の導入に向けて③

3回にわたってご紹介してきた「デマンド交通システムの導入にむけて」は、事業への理解を深めていただくことを大きな目的として取組んできました。

しかし文章で内容を理解していただく難しさは多く、実際には今後の試験運行や25年4月からの本格運行の利用によって良さが伝わるよう準備を行っています。

運行開始に向けたスケジュール

	平成24年				平成25年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
デマンドバス	運行準備	試験運行					本運行
		試験運行開始は事業の許可などにより流動的です。					
巡回バス	現状運行	現状運行（試験運行の状況により調整運行も検討）					廃止
循環バス	現状運行					見直し運行	

※運行事業の許可等で試験運行の開始時期は遅れる可能性もあります。

デマンドバス運行のメリット・デメリット
デマンドバスの運行開始には、今までの問題点や今後とも巡回バスを運行し続けた場合を比較し、メリットがある運行方法として採用しました。

運行システム別の一般的なメリット・デメリット

	メリット	デメリット
巡回バス	<ul style="list-style-type: none"> ○予約なしでバス停に行けば運行している。 ○時間がほぼ正確。 ○安平町は利用料が無料 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者がいなくても運行経費が発生する。（空車状態の運行） ○路線の競合、無料運行はハイヤー事業・民営バス事業に影響する。



	メリット	デメリット
デマンド交通	<ul style="list-style-type: none"> ○予約があるときにだけ運行するので運行ロスの軽減ができる。 ○バス停まで歩く必要がなくなる。 ○需要が散在している地域に対応しやすい。 ○戸口から戸口への輸送は高齢者に優しい。※自宅→バス停→自宅 	<ul style="list-style-type: none"> ○予約が必要で慣れるまでは抵抗感をもたれる可能性が高い。 ○乗合で乗降地が異なることから到着時間が明確ではない。 ○巡回バスと比べると人数が制限される。 ○事前の利用登録が必要である。 ○ハイヤー事業と競合する。

過去5年間の運行実績

		1便あたりの平均利用者数		1便あたりの運行距離(1日計)
		最低	最高	
巡回バス	追分	3.3人(H20)	4.5人(H23)	11km(55km)
	早来	6.0人(H22)	6.9人(H19)	60km(180km)
循環バス		9.8人(H19)	14.7人(H21)	70km(210km)

巡回バスの運行実績がデマンド運行の有利性や車輻の大きさを決定するデータとなっています。

デマンドバス運行料金（案）

	5km以内料金	5km以上料金	備考
デマンドバス	定額 300円	定額 500円	子供料金の設定については整理中
参考 他の交通機関のおおよその運行料金			
ハイヤー	520円～1,480円	1,480円～	4名まで乗車可
あつまバス	140円～300円	300円～	子供料金半額
JR北海道	町内の駅間は5km以上	200円～	子供料金半額

・地域公共交通の維持は上記の交通手段がバランスよく継続されることが前提となっています。
・利用料金や内容の違いを理解すると効率的な便利な利用もできます。

巡回バスの利用者には「慣れ」たものが「無料」から「有料」になることは問題になります。今後も路線を確保していく対策として理解をお願いする部分です。

地域公共交通維持は民間の路線の確保と利用者の利便性を確保することが最大の目的で「メリット」となります。

主な問題点の解決

・無料運行や競合路線が民間事業者の経営を圧迫する事。
・ムダや偏りの無い町予算の利用を図るため、利用者への負担や路線維持経費の見直しをして既存路線の廃止を招かない整理をする。

利用者の声で

先進地の事例でも運行当初の認知度や理解度が低いことで利用実績が上がらないことが多く、広報や説明会の取組みが行われても利用増加に転じたのは利用者の「口コミ」の力が大きいようです。確かに役場からの案内や説

明を聞くことより、知り合いなど実際の利用者からの説明（感想）は説得力があることを考え、初めて乗った方から「利用しやすい」と感じていただき利用が広がるような運行準備を進めています。

今回5月からの特集では具体的な利用方法などには触れていませんが、運行開始の段階で住民説明会や運行案内等、詳しくお伝えする予定となっています。